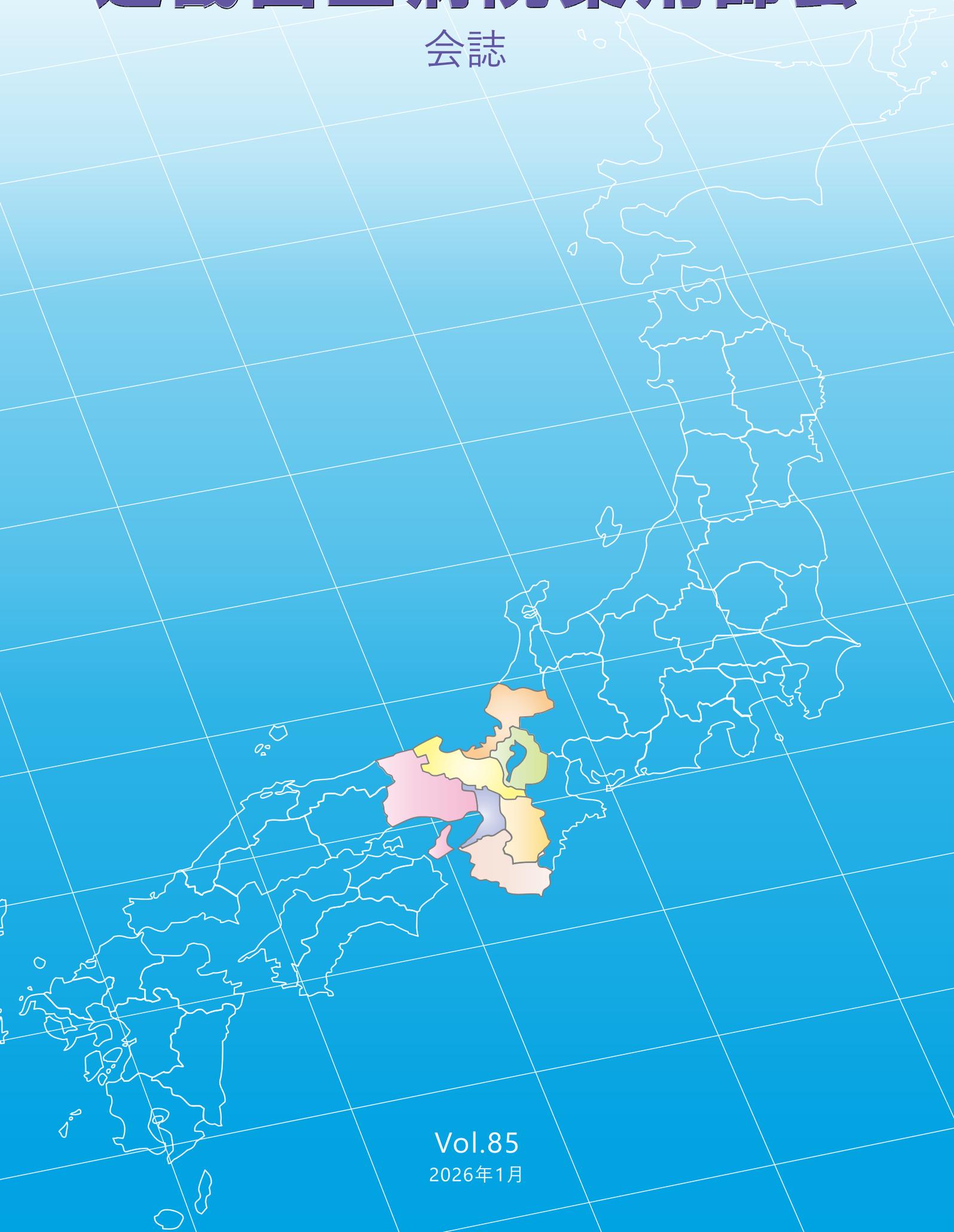


# 近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.85

2026年1月

## 目 次

会長就任のご挨拶.....	2
	敦賀医療センター 田路 章博
副会長就任のご挨拶.....	4
	南京都病院 庄野 裕志 大阪医療センター 山下 大輔
新年のご挨拶.....	6
	神戸医療センター 本田 富得
薬剤部紹介.....	8
	近畿中央呼吸器センター 阿部 正樹
2026 年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	10
	大阪南医療センター 白井 祐也
2026 年度 近畿国立病院薬剤師会総会 特別講演会報告.....	13
	大阪南医療センター 川上 智久
2025 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム 参加報告.....	14
	兵庫中央病院 植村 優実
2025 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム 参加報告.....	15
	大阪医療センター 松谷 拓海
周術期管理チーム認定薬剤師の取得について.....	16
	近畿中央呼吸器センター 川上 侑希
趣味のページ.....	17
	東近江総合医療センター 野阪 佳祐
編集後記.....	19

## 会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長  
敦賀医療センター 田路 章博

この度、歴史ある近畿国立病院薬剤師会(前身「近畿国立病院・療養所 循環器病センター薬学集団会」:昭和 36 年発足)の会長を拝命いたしました敦賀医療センターの田路章博です。前任の本田富得先生におかれましては、多大なるご尽力を賜り、当会の発展を力強く牽引していただきました。その重責を引き継ぐことに、身の引き締まる思いですが、会員の皆様のご期待に沿えるよう、誠心誠意、務めさせていただきます。

さて現在、私たちを取り巻く医療環境は大きな転換期を迎えています。医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアの推進、医療 DX の加速、そして地域医療における薬剤師の役割の高度化など、私たちが向き合うべき課題は山積しています。特に、近畿グループの国立病院やナショナルセンターは、高度急性期医療や政策医療の拠点として、地域医療の中核を担っています。そこで働く私たち薬剤師には、単なる調剤/病棟業務に留まらず、より高い専門性と倫理観が求められています。

私は、任期中に次の三つの柱を軸に活動を展開したいと考えています。第一に、「知の共有と研鑽」です。近畿グループには多種多様な専門性を持つ病院が集結しています。このネットワークを最大限に活かし、最新の知見や好事例を共有し、全体の底上げを図ります。第二に、「次世代を担う人材の育成」です。全会員(特に若手薬剤師)が国立病院で働くことに誇りを持ち、夢を描ける環境を整えます。働き方改革を「制限」と捉えるのではなく、より創造的な業務へシフトする「好機」に変えていく議論を深めたいと思います。第三に、「顔の見える連携の深化」です。病院の垣根を超えた会員同士の絆を強め、困った時に互いに相談できる温かい組織を目指します。

「伝統は守るものではなく、作り上げるもの」と言われます。先人達が築き上げた当会の誇りを胸に、時代の変化を恐れず、一步先を見据えた組織運営に邁進してまいります。新会長として、私は皆様にとって「最も身近で、最も頼れるリーダー」でありたいと願っています。当会の知見を各施設へ、各施設の切実な声を当会へ。この双方向の橋渡しを、私の任期を懸けて全ういたします。皆様、どうか新しい時代を共に切り拓いていきましょう。

2026 年度のスローガンとして、「Challenge for a Change～変革への挑戦～」を掲げたいと思います。事業計画において最も大きな挑戦は「委員会再編」です。2027 年度に向けて時代に即した委員会を再編させていただきます。また当会の事業において、集合開催は親睦に特化させていただきます。勉強会は Web 開催、集合開催は親睦とメリハリを付けると共に、会員の

皆様への金銭面の負担軽減を図ります。「薬剤師の集い」や「意見交換会」において当会が補填しますので、積極的にご参加の上、各々が求める横の繋がりを構築する場としてご活用ください。さらに、会誌投稿者や勉強会発表者に講師謝礼を交付し、労をねぎらうと共に、会員同士の情報交換が益々活発になることを期待します。私は、会員の皆様へ「NHO 薬剤師の真髓」をご理解いただき、エンゲージメントが向上するよう努める所存です。これらの取り組みは、会員間の相互理解が深まり、当会における全体のパフォーマンス向上や転勤への配慮、離職防止にも繋がることと考えています。当会の強みは、ITリテラシーが高い若い会員が多いこと、他グループにはない随一の団結力があることです。先人達が培ってきた価値観や強みを大切に、当会に新しいアイデアを全会員が持ち寄り、全会員でイノベーションを起こしましょう。

最後になりますが、会員の皆様のお力添えをいただき、これからの当会の発展に微力ながら努力精進する所存です。皆様にとって実り多く、活気溢れる会にしていきたいと心より願っています。皆様も存分に楽しんでください。

## 副会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 副会長  
南京都病院 庄野 裕志

この度、田路会長のもと副会長をさせていただくことになりました南京都病院の庄野裕志です。近畿国立病院薬剤師会の副会長という大役に身の引き締まる思いですが、全力を尽くして務めますのでご協力とご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、今年には診療報酬改定の年となります。診療報酬に対応した新たな業務展開を検討している薬剤部科長もおられることと思います。また、病院薬剤師の大幅な増員は難しい昨今、薬剤助手へのタスクシフトや業務支援ロボットの活用による業務の効率化が進められています。病院薬剤師に対する他職種、社会からのニーズに応えるため、病院薬剤師の業務は対物から対人業務中心に、入院患者だけでなく外来患者への服薬指導とどんどん変化し拡大しています。現場の薬剤師の先生方には、変化する業務の中で、ふと他の人はどうやっているか疑問に思うことはないでしょうか。他の施設の同世代の薬剤師と交流し、ちょっとした疑問を話し合える、そんな場を作っていきたいと考えています。

多くの診療分野で抗体医薬品が登場し、今までにあまり見られなかった副作用を経験するようになりました。また、薬価が高額になり費用対効果も踏まえた治療方針が提案されるようになってきました。医療の進歩は著しくありますが、病院薬剤師の求められる役割は、患者の QOL を上げるために最適な薬物療法を提案、評価していくことにあります。経験の浅い先生や異動により不慣れな分野に取り組む先生もいらっしゃると思います。当会には 8 つの委員会があり、各委員会の委員長は工夫を凝らした事業を計画しています。会員の先生方が知識を得て、臨床の場で活用できるような事業となるよう努めてまいりますので、ぜひご参加の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、近畿国立病院薬剤師会が、相談できる仲間との親交の場として、知識の底上げの場として、医療を発展させる発表の場として、会員の先生方にとって有意義な場となるよう取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 副会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 副会長  
大阪医療センター 山下 大輔

この度、新たに就任された田路会長よりご指名を賜り、引き続き副会長を務めさせていただくこととなりました。副会長としては3期目となりますが、会員の皆様のお力添えを頂きながら、精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

振り返れば、前本田会長の2期4年間は、コロナ禍の中Web会議システムとの格闘から始まりました。ハウリングに悩まされ、画面共有のボタンを押し続け、気づけば「Web会議に詳しい人」という評価までいただくようになりました。

2期目以降は感染症分類の変更もあり、総合医学会をはじめ、現地開催やハイブリッド形式での事業が再び活発になりました。当会の目的のひとつである「会員相互の親睦」を実感できる機会も増え、昨年6年ぶりに開催できた「薬剤師の集い」では、128名の皆様とバーベキューを楽しむことができました。施設を超えて交流の輪が広がる光景に、改めて対面の力を感じた次第です。

旧役員の先生方には、日々の業務の合間を縫って当会の発展に多大なご尽力を賜りました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

今年度からは新しい会長を迎え、新体制でのスタートとなります。これまで培ってきた経験を活かしつつ、新役員の先生方からも多くの新しい企画案を頂いており、Webの利点と現地開催の魅力を両立させた事業を、さらに充実させていきたいと考えております。

当会の目的である「薬剤師の質的向上」と「会員相互の親睦」をより確かなものにするため、300名を超える会員の皆様が施設を超えてつながりを感じられる場をつくり、そのつながりが日々の業務や専門性の向上に還元されるよう、引き続き努力して参ります。

新体制のもと、近畿国立病院薬剤師会のさらなる発展を目指して取り組んで参りますので、皆様のご理解とご協力、そして積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。

## 新年のご挨拶

国立病院機構 近畿グループ 医療担当 薬事専門職  
神戸医療センター 本田 富得

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、平素より近畿グループの事業運営に対し、格別のご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、医療を取り巻く環境は激しく変化しており、マイナンバーカードの利用や電子処方箋の普及など、医療 DX の取り組みが着実に進展しています。こうした変革期にあつて、私たち薬剤師は業務の在り方を見つめ直し、その専門性をより一層発揮していくことが求められていると感じております。

さて、2026 年度には診療報酬改定を控えており、病院薬剤師にとっても重要な節目の年となります。物価高騰や人件費上昇を背景に、医療従事者の処遇改善や医療提供体制の持続可能性が、これまで以上に重視される改定となることが予測されます。病院薬剤師の分野においては、薬学的管理の質、チーム医療への貢献、そして医薬品の適正使用に対する評価がさらに問われることになるでしょう。日々の業務における服薬支援や副作用モニタリング、多職種連携といった地道な積み重ねが、評価の根幹となります。今回の改定を単なる制度変更として捉えるのではなく、私たちの役割を再確認し、近畿グループとしても前向きに取り組んでまいりたいと考えております。

一方で、病院薬剤師の確保は依然として深刻な課題です。若手薬剤師の価値観の変化や厳しい採用環境を踏まえ、国立病院機構の魅力を伝える施設見学会の開催や、就職説明会への積極的な参加など、将来を担う人材を迎え入れるための施策を、グループ一丸となって推進してまいります。

また、経営面においても厳しい状況が続く中、薬剤部門として後発医薬品やバイオ後続品の採用促進、適正な在庫管理などを通じ、医療の質を維持しながら病院経営に貢献していくことが極めて重要です。皆様の現場での創意工夫と情報共有が、病院全体の力となることを期待しております。

最後に、近畿国立病院薬剤師会が田路会長の新体制のもと、より一層活気ある場となり、会員の皆様にとって学びと繋がりに満ちた一年となりますよう、私も薬事専門職の立場から微力ながら尽力してまいり所存です。

本年が、国立病院機構、近畿国立病院薬剤師会、そして会員の皆様にとって、実り多く希望に満ちた一年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。  
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 薬剤部紹介

### 近畿中央呼吸器センター

#### 【施設概要】

近畿中央呼吸器センターは堺市北区に位置しており、JR 阪和線、南海高野線の三国ヶ丘駅から徒歩約 15 分の場所にあります。病院の近くには世界遺産にも登録されている「百舌鳥・古市古墳群」の中でも特に有名な仁徳天皇陵(大仙古墳)があり、歴史文化の継承と都市経営の両立に取り組んでいる環境にあります。

国立療養所近畿中央病院を前身とし、2004 年 4 月の独立行政法人化に伴い「独立行政法人 近畿中央胸部疾患センター」として発足。2018 年 9 月に「近畿中央呼吸器センター」へ名称が変更されました。

病床数は 276 床(一般 261 床、結核 15 床)であり、政策医療の一つである「呼吸器疾患」における高度専門医療施設として診療、臨床研究、教育研修、情報発信の全国的なネットワークに参加しています。また、2001 年より臨床研究センターを開設し新規診断治療法の開発や基礎研究だけでなく、標準的ガイドラインのためのエビデンス創成にも深く関わり、呼吸器疾患の克服を目指しています。



#### 【薬剤部概要】

薬剤部は、薬剤部長、副薬剤部長、主任 7 名(調剤主任、薬務主任、製剤主任、病棟業務管理主任、治験主任)、薬剤師 9 名、薬剤助手 1 名で構成されています。

病棟業務においては、結核病棟や緩和ケア病棟を含む全病棟で活動しており、安全な薬

物治療に貢献できるよう努めております。専用のネブライザーを用いる吸入薬も増えており、病院として入院による導入体制の構築に取り組んでいるため、薬剤部も指導体制の一翼を担っています。また、各種チーム医療(PCT、ICT/AST、NST、褥瘡、DOTSカンファなど)にも参画し、多職種との連携を図るなかで薬剤師としての専門性を発揮しています。

外来で化学療法を実施される患者さんに対しては、2014年から薬剤師外来を開設し、医師の診察前に薬剤師による面談を実施し、積極的な処方提案や検査依頼も行っています。がん患者指導管理料ハをはじめ2024年度診療報酬改定にて新設された、がん薬物療法体制充実加算の算定も実施し、副作用の早期発見や軽減に努めています。

また、手術や気管支鏡検査を受ける患者さんを対象に入院前面談を実施し、定期使用薬の把握と共に、休薬が必要な薬剤を確認、報告することで安全な治療の実施に貢献しています。

治験管理室にも薬剤師を配置し、多くの治験の受け入れに協力しています。医薬品が関連する治験も多く、治験薬管理やレジメン管理などを通じて、安全に確実に治験を実施できるよう支援を行っています。

病院薬剤師に求められる業務は多岐にわたります。院内だけでなく地域との連携にも力を注ぎ、今後も安全な医療の提供、医薬品の適正使用推進に努めていきたいと考えています。



(文責:阿部 正樹)

## 2026 年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告

大阪南医療センター 白井 祐也

2026 年度 近畿国立病院薬剤師会総会が、2026 年 1 月 10 日(土)に大阪市中央公会堂にてハイブリッド形式で開催された。山下副会長の開会の辞より総会が開始となり、本田会長・薬事専門職より挨拶を頂いた。議長には、奈良医療センター 小田副薬剤部長が選出され、2025 年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。続いて、田路新会長より挨拶があり、新役員の紹介の後、2026 年度事業計画案、予算案について審議され、全て承認された。続いて、近畿国立病院生涯教育センター 福田理事長より事業報告がなされた。最後に庄野新副会長の閉会の辞をもって総会が終了した。

日 時:2026年1月10日(土) 13:00～14:20

開催場所:大阪市中央公会堂

開催方法:ハイブリッド開催

出席者:対面者 122 名、Web 87 名、委任者 100 名(会員数 336 名)

会則 12 条 5 項に従い、会員過半数出席により総会が成立

司 会:山下副会長(大阪医療センター 副薬剤部長)

開会の辞:山下副会長(大阪医療センター 副薬剤部長)

議長:小田副薬剤部長(奈良医療センター 副薬剤部長)

閉会の辞:庄野新副会長(南京都病院 薬剤部長)

### 1. 報告事項

#### 1) 2025 年度事業報告

##### ① 事業報告

各担当理事、委員長または副委員長より 2025 年度事業報告について資料の通り報告がなされた。

・総務	辰己総務担当理事(京都医療センター)
・企画	水津企画担当理事(大阪刀根山医療センター)
・広報	中野広報担当理事(大阪南医療センター)
・臨床研究委員会	庄野委員長(南京都病院)
・治験委員会	松本委員長(姫路医療センター)
・医薬品情報委員会	村津委員長(大阪医療センター)
・がん・緩和・精神委員会	長谷川委員長(大阪医療センター)

- ・感染・免疫・アレルギー委員会 横山委員長(敦賀医療センター)
- ・循環器委員会 池上委員長(京都医療センター)
- ・糖尿病委員会 坂東委員長(大阪医療センター)
- ・栄養・褥瘡委員会 海家委員長(神戸医療センター)

## ② 地区会報告

各地区理事より地区会活動について資料の通り報告がなされた。

- ・京都北部・福井地区 山下地区理事(あわら病院)
- ・京都南部・滋賀地区 塚原地区理事(京都医療センター)
- ・兵庫南部地区 長門石地区理事(姫路医療センター)
- ・大阪北部・兵庫東部地区 熊谷地区理事(兵庫中央病院)
- ・大阪南部地区 坂井地区理事(近畿中央呼吸器センター)
- ・奈良地区 中澤地区理事(やまと精神医療センター)
- ・和歌山地区 清水地区理事(和歌山病院)

## 2) 2025 年度会計報告

田邨経理担当理事(南京都病院)より 2025 年度会計について資料の通り報告がなされた。

## 3) 2025 年度会計監査

永井監査役(姫路医療センター)より、2025 年 12 月 23 日に会計監査が実施され、適正かつ正確であったとの報告があった。

以上について審議の結果、賛成多数であった。

## 2. 新会長挨拶

田路新会長(敦賀医療センター)より、就任の挨拶と新役員の紹介があった。

## 3. 審議事項

### 1) 監査役選出

別府薬剤部長(奈良医療センター)より、永井薬剤部長(姫路医療センター)、宮部薬剤部長(大阪刀根山医療センター)の推薦があり、賛成多数で承認された。

### 2) 2026 年度事業計画案

各担当理事、委員長より 2026 年度事業計画案について資料の通り説明があった。

- ・総務 辰己総務担当理事(京都医療センター)
- ・企画 水津企画担当理事(大阪刀根山医療センター)

・広報	中野広報担当理事(大阪南医療センター)
・臨床研究委員会	櫛田委員長(大阪南医療センター)
・治験委員会	吉川委員長(大阪刀根山医療センター)
・医薬品情報委員会	横山委員長(敦賀医療センター)
・がん・緩和・精神委員会	長谷川委員長(大阪医療センター)
・感染・免疫・アレルギー委員会	坂倉委員長(大阪医療センター)
・循環器委員会	池上委員長(京都医療センター)
・糖尿病委員会	坂東委員長(大阪医療センター)
・栄養・褥瘡委員会	海家委員長(神戸医療センター)

### 3) 2026年度予算案

田邨経理担当理事(南京都病院)より、2026年度予算案について資料の通り説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

### 4. 近畿国立病院生涯教育センター事業報告

福田理事長(京都医療センター)より、以下の事業報告がなされた。

- ・2025年度の年間活動報告と各研修会の開催記録について
- ・認定実務実習講習会の開催状況、開催案内について

以上

## 2026年度 近畿国立病院薬剤師会総会 特別講演会報告

大阪南医療センター 川上 智久

2026年1月10日(土)に開催された近畿国立病院薬剤師会学術講演会についてご報告いたします。本講演会では、がん薬物療法における薬剤師の役割や、肺癌治療の最新動向について学ぶ貴重な機会となりました。

一般講演では、大阪医療センター薬剤部の野田拓誠先生より、『当院における薬剤師外来の取り組み』についてのご講演を拝聴いたしました。大阪医療センターでは、2024年7月より、がん化学療法施行患者さんを対象に、医師の診察前に行う薬剤師面談である、『薬剤師外来』が開始されています。本講演では、その導入背景から運用体制、具体的な業務内容まで詳しくご紹介いただきました。副作用評価や支持療法の提案などを通じて、がん治療中の患者さんの不安軽減や治療継続の支援に大きく寄与している取り組みであると感じました。特に大阪医療センターで独自に作成されている症状チェックリストの活用は、患者さんの自覚症状を整理し、評価を標準化でき、効率的に副作用を把握されている点が非常に参考になりました。また、薬剤師から医師へ行う処方提案の様式も工夫がなされており、多施設においても参考となる取り組みであると感じました。

特別講演では、大阪国際がんセンター呼吸器内科の國政啓先生より、『肺癌薬物療法 Update2026』についてのご講演を拝聴いたしました。本講演では、最新の治療ガイドラインに基づき、肺癌薬物療法の変遷と現在の治療戦略について、これまでの豊富な診療経験を交えながら、分かりやすく解説していただきました。従来は殺細胞性抗がん剤や分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬に加えて、抗体薬物複合体や二重特異性抗体といった新しいタイプのがん治療薬の登場により、非小細胞肺癌の薬物治療は、著しい進歩を遂げていくことを改めて実感いたしました。一方で、期待される治療効果の反面、治療選択肢の多様化に伴い、薬剤費の高額化や新たな有害事象への対応が生じていることについてもお示しされていました。このような中で、治療の選択にあたっては、単に新規性を重視するのではなく、患者さんと十分に対話を行い、価値観や生活背景を踏まえたうえで意思を尊重する姿勢が重要である、と述べられていた点が特に印象的でした。

本講演会を通じて、がん薬物療法における薬剤師がチーム医療の中で果たす役割を改めて認識するとともに、今回の学びを日々の業務に活かしていきたいと思っております。

## 2025 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム 参加報告

兵庫中央病院 植村 優実

2025 年 11 月 15 日 (土)に開催されました、2025 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウムに参加しましたのでご報告いたします。

今回のシンポジウムのテーマは『医療者のための生成 AI 活用法について』でした。

一般講演では大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 副部長の松井早紀先生より、「乳癌診療における AI 活用の現状と今後」についてご講演いただきました。画像診断支援への AI 活用や、対話型乳がん疾患患者説明生成 AI、さらには AI 治療日誌アプリなど、すでに実臨床で活用されている技術や今後の展望を伺うことができました。医師の業務を補助しつつ、患者理解の向上にもつながる AI の活用事例に、大きな可能性を感じました。

続いて、特別講演では、慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 教育研修部門長 特任講師の吉田和生先生より、「医療分野における生成 AI の実践的活用法 2025 年 11 月 ver.」をご講演いただきました。講演中に実際にプロンプトを入力して生成 AI を操作する場面もあり、目の前で短時間に要約や資料が出来上がる様子には驚きを隠せませんでした。AI を使いこなすための「指示の出し方(プロンプト)」や注意点についても実践的な解説があり、すぐに業務へ応用できそうなヒントを多く得られました。

生成 AI というと、一般には「仕事が奪われるのではないか」という不安の声も聞かれますが、今回のシンポジウムを通して感じたのは、“診療の質を落とさずに効率を上げる”ための大きな武器になり得るということでした。正しく使えば、医療現場の負担軽減や質の向上にも寄与する可能性が高いと感じました。

最後になりましたが、ご多忙のなか本シンポジウムの開催に尽力された関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。学んだ内容を今後の業務に活かし、より質の高い薬剤業務の実践を目指してまいります。

## 2025 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム 参加報告

大阪医療センター 松谷 拓海

2025 年 11 月 15 日(土)に AP 大阪茶屋町で開催されました 2025 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウムに参加しましたのでご報告させていただきます。

今回のシンポジウムでは、AI の活用法について二人の演者の方からご講演いただきました。一般講演では、大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 副部長の松井 早紀先生より乳がん診療における AI 活用の現状と今後についてお話いただきました。乳がん診療の課題に対し、AI の活用が進む現状と大阪国際がんセンターの事例を紹介いただき、大変興味深く拝聴しました。診察前に患者が入院についての基礎知識を得られるシステムである「対話型乳がん疾患説明生成 AI」が患者の口頭の質問に対して返答している動画を見て驚いたのと同時に、今後の医療現場ではこのような光景が増えていく予感を感じました。講演を聞いて、AI の活用により業務が効率化される一方で、倫理面などの課題があることが理解出来ました。

特別講演では慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 教育研修部門長 特任講師の吉田和生先生より医療分野における生成 AI の実践的活用法についてお話いただきました。生成 AI の個人利用について、基本概念から実践的な使い方まで紹介いただき、生成 AI について様々なことを学ぶことが出来ました。講演の中で生成 AI は 24 時間なんでも聞くことが出来る「最高の相棒」であるが、一方で全て信用するわけではなく、自分の専門性を用いてファクトチェックが必要であると述べられていたところが印象的でした。ChatGPT を用いたメール作成や GenSpark を用いたスライド作成など具体的な活用例を示していただいた際には、生成 AI の利便性を実感出来ました。

最後に今回のシンポジウムに参加させていただき、普段から AI を活用していくことの重要性和個人情報などは慎重に取り扱う必要性を学ばせていただきました。ご多忙の中、今回の 2025 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウムに向けてご準備いただいた先生方には大変感謝申し上げます。今回のシンポジウムで学んだことを少しでも生かすことが出来たらと考え、今回のレポートも一部 AI を用いて作成しております。今後、もっと生成 AI を使っていきたいと思います。

## 周術期管理チーム認定薬剤師の取得について

近畿中央呼吸器センター 川上 侑希

『周術期管理チーム』とは周術期における診療の質向上を目的として、日本麻酔科学会が2007年より提唱している取り組みです。看護師、薬剤師、臨床工学技士を対象に周術期管理チームのメンバーとしての認定制度が設けられています。術前・術中・術後における基礎的な教育を受けたことを証明する第一歩となる資格です。

受験当時、私は脳神経外科病棟を担当しており、過去には整形外科病棟を担当した経験もありました。病棟で周術期の患者に関わる機会が多く、周術期の患者管理についてさらに学びたいと考え、資格取得を目指すようになりました。

周術期管理チーム認定薬剤師の資格申請要件は下記2点のみです。

- 薬剤師としての病院・診療所勤務歴を5年以上有し、そのうち2年以上の周術期関連の実務経験があること
- 申請する年の3年前の4月1日から申請する年の3月31日までの間に、日本麻酔科学会が主催、または共催する周術期管理チームセミナーへの2回以上の参加実績、あるいはこれに相当するe-learningの受講実績があること

資格取得は、受験申請→受験資格の審査→筆記試験→認定審査という流れになります。認定試験を受ける上で注意点があります。受験申請は毎年5～6月、筆記試験は11月にあり、12月に認定審査の結果発表となりますが、セミナーの参加やe-learningの受講は前年度までに全て完了しておく必要があります。例えば、2026年度に受験する場合、2023～2025年度にセミナー参加やe-learning受講を全て完了していなければ受験資格が得られません。

筆記試験は全職種共通で、主に周術期管理チームテキストから出題されます。このテキストでは周術期に使用する薬剤だけでなく、バイタルや心電図モニター、手術時に使用する麻酔器や手術室の設備など幅広い分野について学ぶことができます。また、認定制度のホームページ(<https://public.perioperative-management.jp/>)では過去の試験問題と解答が直近3年間分掲載されています。受験前はこちらの過去問に必ず目を通して、対策を立てることをオススメします。

周術期管理チーム認定薬剤師の取得を通して、麻酔薬や輸血等の周術期に用いる薬剤を改めて学びなおし、確認すべき観察項目や副作用について理解を深めることができました。病棟でも術後の悪心嘔吐(PONV)のリスク因子を意識するようになり、制吐剤の適切な使用提案に生かすことができたと考えています。また、一般病棟業務の薬剤管理のみでなく、周術期の管理を学ぶことは病院薬剤師としてのスキルアップに繋がるのではないかと思います。

## 趣味のページ

東近江総合医療センター 野阪 佳祐

国立循環器病研究センターの足立先生から引き継ぎました。足立先生とは同期で、ともに1年目から東近江総合医療センターで働いてきた、いわば戦友のような存在です。異動前には、ほかの先生方も交えてよく食事に行っており、焼肉に行く機会が多かったのですが、イカをよく頼んでいたのが印象に残っています。今ではそうした何気ない時間も良い思い出です。

私の趣味はゲームです。特にFPSなどのシューティングゲームが好きで、担当病棟のドクターや研修医の先生方と一緒に遊ぶことが日常の楽しみになっています。もともと業務の中でよく話す関係ではありましたが、ゲームが好きという話をきっかけに交流が増え、仕事以外の場面でも距離が縮んだと感じています。最近では一緒に博多へ旅行に行くこともあり、現在では週に1回は食事に行くほどの関係になりました。



また、物心がついたころからずっと好きなのが「ドラゴンクエスト」です。最初に遊んだ作品はプレイステーション2の『ドラゴンクエストVII』で、それ以降は全てのナンバリング作品に加え、モンスターズシリーズも遊んできました。最近発売されたりリメイク作品もクリアし、来年2月に発売予定の『ドラゴンクエストVII』リメイクも今から楽しみにしています。特にモンスターが好きで、「メタリックモンスターズ」シリーズなどのフィギュアを集めて部屋に飾っています。また、作業中に「勇者の挑戦」を聴くと気持ちが切り替わり、作業が捗ることもあり、長年親しんできた作品が今でも日常の支えになっています。



滋賀に移住してからは、車がないと生活が成り立たないこともあり、免許を取得しました。もともと映画が好きで、『トランスフォーマー』や『アイアンマン』などに登場するAUDIのデザインに惹かれ、「いつか乗ってみたい」と思っていました。また、バットマンも好きで、バットモービルのような存在感のある車に憧れていたこともあり、現在はAUDI A5 スポーツバック Sラインに乗っています。特定の目的地があるわけではありませんが、車を走らせる時間そのものが良い気分転換になっています。日々の業務では緊張感のある場面も多いですが、こうした趣味の時間に支えられながら、オンとオフの切り替えを大切に過ごしています。

今回は、宇多野病院の澤村先生にバトンをお渡ししたいと思います。澤村先生は、私が1年目の頃から大変お世話になっており、勝手ながら兄のように慕っている存在です。澤村先生ならではの趣味のお話を拝見できることを楽しみにしています。

## 編集後記

- ◆ 新年あけましておめでとうございます。昨年も多くの先生方から原稿を執筆いただき、ありがとうございました。今年もどうぞよろしく願いいたします。
- ◆ 薬剤師会は今年度より新体制となり、精力的に活動していきたいと思っておりますので、会員の先生方のご協力のほど、よろしくお願いいたします。
- ◆ 2026年は丙午(ひのえうま)の年を迎えました。  
馬が力強く駆け抜けるように、前向きな挑戦と飛躍の一年となりますようお祈り申し上げます。これまで積み重ねてきた努力が実を結び、さらなる成長へとつながる年となれば良いですね。
- ◆ 新体制となり、間もなくという短期間に寄稿いただいた先生方、ありがとうございました。今号も充実した内容となっています。皆様、最後までご熟読いただきありがとうございました。

(N.K.)

近畿国立病院薬剤師会会誌	第八十五号 令和八年一月発行
発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局 (独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター薬剤部内)	福井県敦賀市桜ヶ丘町 33 番 1 号
発行人 会長 田路 章博(敦賀医療)	
編集 広報担当理事 中野 一也(大阪南医療)	
広報委員 川上 智久(大阪南医療)	
	野田 拓誠(大阪医療)
	正木 美有(循環器病研究)
	山下 裕介(あわら)
	及川 悠衣(循環器病研究)